

I 令和元年度釜石市地域包括支援センター事業実施報告

1 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）

(1) 介護予防・生活支援サービス事業

事業名	事業内容・実績・評価	
介護予防ケアマネジメント事業	<p>・要支援1・2の方で「訪問型サービス」（ヘルパー）と「通所型サービス」（デイサービス）のみを利用する方に対して、介護予防ケアマネジメント業務を行った。</p> <p>→「訪問型サービス」と「通所型サービス」以外に、福祉用具貸与など他のサービスもあわせて利用する場合は、介護保険事業会計では「介護予防支援事業」（13ページ記載）として、別事業で区分される。</p> <p>・高齢者の「自立支援」と「生活の質の向上」を目的とし、対象者の心身の状況等に応じて必要なサービスを調整するなど、介護予防に向けたケアプランを作成した。</p> <p>○令和元年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアプラン作成件数 2,928 件（年） ・月平均作成件数 244 件 	<p>・要支援認定者の増加及び市内居宅介護支援事業所の減少から、ケアプランの委託調整が困難な状況。</p> <p>・今後は、高齢者人口が減少傾向に転じていくことが見込まれるが、当面は高止まりが続く。</p> <p>・介護支援専門員の確保が課題</p> <p>・要支援・要介護認定率 20%（令和2年2月末）</p> <p>・高齢化率 39.5%（令和2年3月末）</p>

(2) 一般介護予防事業

※「一般介護予防事業」は、全ての高齢者を対象に行う介護予防の取り組み

事業名	事業内容・実績・評価	
口腔機能向上事業 「歯つらつ健康教室」	<p>・加齢等による口腔機能の低下を予防するため「歯つらつ健口教室」を開催し、かみかみ100歳体操実技指導や参加者の口腔機能測定（個別）を行った。</p> <p>・「いきいき100歳体操」自主活動団体を対象に教室を開催した。</p> <p>○令和元年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託先：岩手県歯科衛生士会釜石支部 ・いきいき100歳体操実施団体（8団体）に対して、1団体あたり2回程度実施 ・内容：講話・体操指導・個別口腔機能測定 ・実施回数 16回 延参加者数 174人 	<p>・かみかみ100歳体操はDVDを見ながら行う口腔体操であり、全8団体が3ヶ月以上継続して実施した。</p> <p>・口腔機能検査結果を個々に説明し、口腔機能維持・改善を図った。</p>

<p>認知症予防教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に対する不安の解消や認知症予防に関する正しい知識の普及・啓発を図ることを目的に「認知症予防教室」を開催した。 <p>○令和元年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期：令和元年10月～令和2年2月 ・実施回数 5回、参加者数 79人 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会や自主活動団体を対象に教室を開催した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で開催できない団体があり目標数150人は達成できなかった。 ・男性参加者が10%（8人）と少なかった。
<p>栄養改善教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル（虚弱）予防のために、低栄養を防ぎ、バランスのとれた食生活を継続するための教室を開催した。内容は、食生活アンケートを活用した管理栄養士による講話等。 <p>○令和元年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき100歳体操実施団体（5団体）に対して実施。 ・内容：体重測定、10食品群アンケート、管理栄養士講話 ・実施回数5回 参加者数 73人 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進課管理栄養士の協力を得て開催した。 ・参加目標数150人には届かなかったが、10食品群アンケート調査から6割程度の方が低栄養の可能性のある事がわかった。 ・参加者からの質問が多く、関心の高さが伺えた。
<p>介護予防普及啓発事業 ・いきいき100歳体操普及に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防と生きがい、住民主体の「通いの場」を推進するツールの1つとして、100歳体操を普及。 ・住民が主体的に事業を実施できるよう段階に応じて、「動機付け支援」・「導入支援」・「継続支援」を行った。 ・「動機付け支援」：事業を始めるにあたり、住民に対して介護予防の必要性と住民主体の取り組みについて、「啓発」と100歳体操の「体験会」を実施した。 ・「導入支援」：実際に地域で100歳体操を希望する団体に、開催場所や必要物品、運営体制の相談、体力測定などを行い、住民主体の介護予防活動の支援を行った。 ・「継続支援」：介護予防効果を高めるため、専門職と連携して介護予防の知識、普及に努めながら、活動意欲の維持向上を図った。 ・リハビリ専門職、管理栄養士、歯科衛生士と協力・連携 <p>○令和元年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動機づけ支援 開催回数14回 参加者数138人 ・導入支援 開催回数15回 参加者数137人 ・継続支援 ①リーダー交流会1回 参加者数 38人 ②全体交流会1回 参加者数 156人 <p>（令和2年3月末現在の自主活動団体数 39団体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の介護予防活動を推進するため、動機付け支援を希望する地域で開催した。 ・動機付け、導入支援の結果、自主活動団体数が目標の35団体を上回る、39団体となった。 ・継続支援として、初めてリーダー交流会を実施し、互いの活動について意見交換する機会を設けた。アンケート結果では参考になったと好評であった。 ・全体交流会では、公募により11団体のビデオレターを上映した。団体ごとの活動内容や参加者の実直な感想が映像で流れると、参加者は熱心に聞き入っていた。

<p>介護予防普及啓発事業</p> <p>・介護予防・介護保険説明会</p>	<p>・65歳になり介護保険証が交付される方等を対象に、介護保険制度や介護予防について理解を深めるための説明会を開催した。</p> <p>・対象者に日程を案内するとともに、釜石市広報にも掲載し希望者が参加できるように配慮した。</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <p>・開催回数7回 参加者数60人（老人クラブ連合会婦人部からの依頼1回を含む）</p>	<p>・平成28年度から開催している。</p> <p>・参加しやすいよう生活応援センターで開催するなど配慮しているが、参加者数が少ない状況である。</p>
<p>地域介護予防活動支援事業（地域住民グループ支援事業）</p>	<p>・介護予防等に資する活動を行なおうとする地域住民団体等に対し、活動費を助成した。</p> <p>・助成を受けた地域住民団体等は、サロン、お茶っこの会、カラオケ会など、介護予防活動に主体的に取り組むもの。</p> <p>・3年間の助成事業（1年目120,000円、2年目75,000円、3年目50,000円、4年目以降は自立を目指す。）</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <p>※実施団体2団体</p> <p>・中妻地区サロン会（2年目）</p> <p>開催回数9回</p> <p>実参加者数20人 延参加者数133人</p> <p>・平田いきいきサークル（1年目）</p> <p>開催回数43回</p> <p>実参加者数81人 延参加者数911人</p>	<p>・3団体の予算を確保している。</p> <p>・他の制度との兼ね合いもあるが、介護予防活動等を実施する団体の掘り起こしについて、各地区生活応援センターと連携を図っていく。</p>

2 包括的支援事業

(1) 総合相談支援業務

事業名	事業内容・実績・評価	
総合相談業務	<p>・社会福祉士を中心とした専門職が、本人、家族、地域住民などからの様々な相談に応じ、制度に関する情報提供や関係先の紹介など、総合相談支援を行った。</p> <p>・専門的関与が必要と判断された場合は、必要とするサービスや制度の利用につなぎ、継続的にフォローするなど支援を行った。</p> <p>・相談窓口として、地域包括支援センター(各地区生活応援センター含む)のほか、市内7箇所在宅介護支援センターを設置している。</p> <p>○令和元年度相談実績：別添資料1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談延件数 2,454 件 ・うち地域包括支援センター 1,967 件 ・うちブランチ（在宅介護支援センター7箇所） 487 件 	<p>・高齢化の急速な進展と人生100年時代を迎え、人口（世帯）に占める独居高齢者や高齢者のみ世帯、及び認知症高齢者の割合が増加している。</p> <p>・あわせて、身寄りのない高齢者や家族関係が疎遠な高齢者の対応が多く、緊急時等、家族に代わり可能な範囲で、地域包括支援センターが対応している現状がある。</p> <p>・家族介護力の低下により、相談内容が多様化、複雑化している。</p>
高齢者現況調査	<p>・市内に住所を有する方で、要支援・要介護認定者を除く65歳以上の方すべてを対象に、「高齢者現況調査」（別添資料2：釜石市高齢者現況調査票）を実施した。</p> <p>・調査に未回答の75歳以上の方を対象に、戸別訪問による調査を実施した。</p> <p>・全ての回答結果を地域包括支援センターで管理しているシステムに取り込み、緊急時の対応や相談時に支援を行う上での基本情報として活用している。</p> <p>・当該調査により、「独居」で「交流がない」（孤立リスクが高い独居高齢者）と回答された方には、各地区生活応援センターで戸別訪問等により調査を行い、地域との関わりや「通いの場」への参加の働きかけなど、必要な支援を行っている（地域包括支援センターでデータを作成・送付→各地区生活応援センターごとに台帳管理・訪問等実施、随時台帳の修正・追加）。</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査件数 10,213 人 回収数 9,008 人 回収率 88.2% ・「独居」で「交流がない」と回答された方 102 人 	<p>・当調査により「独居」で「交流がない」高齢者（孤立リスクの高い高齢者）を把握することが目的の1つであり、調査の成果として上げられる。</p> <p>・また、昨年度調査結果と同様、高齢者の「困りごと」として、「物忘れ、外出時の交通手段、買い物」が上位を占めた。</p> <p>・当調査で抽出された課題等について、施策に結び付けられるよう、関係課と連携・情報共有を図っていく。</p>

(2) 権利擁護業務

事業名	事業内容・実績・評価	
高齢者虐待・消費生活被害の防止など	<p>・社会福祉士が中心となって高齢者虐待対応等、権利擁護に係る相談・支援を行った。</p> <p>・また、権利擁護に係る住民向け説明会を開催し、高齢者虐待の概要と対応に関する説明を行った。</p> <p>※成年後見制度の市長申立、普及啓発、成年被後見人等への報酬助成、及び成年後見センターとの連携等、成年後見制度に係る事業は「成年後見制度利用支援事業」として12ページに記載</p> <p>○令和元年度権利擁護に係る相談対応状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待、権利擁護に関する相談延件数 65件 ・虐待認定件数 5件 <p>[研修会等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民向け権利擁護説明会 9回開催 ・延参加者数 163人 	<p>・高齢者虐待については、ケースに応じて、釜石警察署と連携及び情報共有を図り対応している。</p> <p>・釜石警察署に虐待案件の通報があれば、同署から「虐待事案通報票」により、当センターに情報提供がある。</p> <p>・虐待対応は家族関係を壊さないよう配慮が必要であり、ケース検討を重ね、慎重に対応していくことが求められる。</p>

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

※介護支援専門員（ケアマネジャー）のサポート・困難ケースの支援・資質向上・ネットワーク構築

事業名	事業内容・実績・評価	
包括的・継続的ケアマネジメント	<p>・主任介護支援専門員が中心となって、多職種の連携や、居宅介護支援事業所の介護支援専門員（ケアマネジャー）へのサポートを行った。</p> <p>・介護支援専門員が抱えている困難ケース等に対して随時相談を受け、助言や指導、側面的に支援するなど、個々のケースに応じサポートを行った。</p> <p>・介護支援専門員としての知識や技術などの実践力を向上するための研修会や、在宅介護支援センター及び居宅介護支援事業所との連絡会議（年3回の定例会）を開催し、あわせて関係制度に関する研修会等を開催した。</p> <p>○令和元年度研修会実施状況 別表2のとおり</p>	<p>・在宅介護支援センター及び居宅介護支援事業所との連絡会議（年3回）を開催し、情報提供・共有・意見交換を行う事により、居宅介護支援事業所との関係の構築が図られている。</p> <p>・介護支援専門員研修会の開催により、介護支援専門員の実践力が高められている。</p>

別表2 研修会開催状況（包括的・継続的ケアマネジメント）

年月日	内容	講師	会場	参加者数
① R1. 10. 25	現場で活用する回想法の基本と実践 ～よい聴き手とは～ ※「回想法」の基本を学び、演習により学びを深め、地域活動としての回想法の在り方を一緒に考える。	日本福祉大学大学院 客員教授 野村 豊子氏 ボランティアグループ 「もやいの会」 ほか ※遠野市、大槌町、当市及び釜石 広域介護支援専門員協議会主催 公益財団法人いきいき岩手支援財団後援	大槌町文化交流センター おしゃっち	56人
② R1. 11. 26	① 岩手県の地域包括ケアシステムと多職種連携の現状と課題 ② 自立支援型地域ケア個別会議の推進に向けて ※「岩手県自立支援型地域ケア個別会議多職種連携推進研修会」を開催し、基礎的な仕組みづくりや、多職種連携の理解を図る。	① 岩手県保健福祉部長寿社会課主任 湯沢 克氏 ② 静岡県立大学短期大学部非常勤講師・金ヶ崎町介護政策アドバイザー 山本 敏幸氏 ※岩手県主催 遠野市、大槌町、当市及び釜石広域介護支援専門員協議会共催	市民ホール TEETO ホールB	85人
③ R1. 12. 25	事例検討会 ～実践力向上のために～ ※介護支援専門員が現場で活用できる技法等を習得し、それを実践に結び付ける。	（一般社団） 日本ケアマネジメント学会 副理事長 白木 裕子氏 ※遠野市、大槌町、当市及び釜石 広域介護支援専門員協議会共催 公益財団法人いきいき岩手支援財団後援	あえりあ遠野 交流ホール	79人

(4) 地域ケア会議の充実

事業名	事業内容・実績・評価	
<p>地域ケア個別会議の開催</p>	<p>・地域ケア個別会議として、「個別事例の検討を通じた地域課題の抽出と地域力の向上、及びネットワークの構築」を図る地域ケア個別会議（以下「課題抽出型」という。）と、「規定の訪問回数を超えるケアプランの検討」を行う地域ケア個別会議（以下「自立支援型」という。）を開催している。</p> <p>・当センターでは、課題抽出型を実施しており、自立支援型は高齢介護係と協力し実施している。</p> <p>・課題抽出型の構成メンバーは市職員のほか、民生委員、地域住民（町内会等団体の代表）、ケアマネジャー、弁護士、医療関係者（看護師・医療社会事業士等）、介護保険サービス事業関係者、生活支援コーディネーターなど、地域住民と多職種が集まり、会議のテーマにより参加者を選定（依頼）する。</p> <p>○令和元年度事業実績（課題抽出型）：別添資料3</p> <p>・生活応援センターごとに8回開催（各地区1回×8箇所）</p>	<p>・地域ケア個別会議で抽出された地域課題等を、各地区生活応援センター及び生活支援コーディネーターと連携して、「地域づくり」の中で解決する仕組づくりの構築に努めていく。</p> <p>・また、上位の会議である「地域ケア推進会議」へ地域課題を提案できるよう、地域包括ケア推進本部及び、関係課と連携・情報共有を図っていく。</p>

(5) 認知症総合支援事業

事業名	事業内容・実績・評価	
<p>「認知症初期集中支援チーム」による相談・支援</p>	<p>・認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、平成29年度から「認知症初期集中支援チーム」を地域包括支援センター内に設置している。</p> <p>・「認知症初期集中支援チーム」の役割は、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築するもの。</p> <p>・具体的な支援内容：家庭を訪問し、生活状況を把握し、早い段階で医療機関を受診するなど、適切な医療や介護保険サービス、及び地域資源に結び付ける。</p> <p>・チーム構成員 認知症サポート医、保健師、介護福祉士2人=4人</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <p>・訪問実人数 15人（男性4人、女性11人）（受診支援7人）</p> <p>・訪問延べ人数 78人</p> <p>・来所相談件数 23件</p> <p>・電話相談件数 56件</p> <p>・チーム員会議回数 0回</p>	<p>・「認知症初期集中支援チーム」とあわせて、「認知症地域支援推進員」を地域包括支援センター内に配置しており、認知症支援の強化を図っている。</p> <p>・今年度は、新規相談者の受診支援が比較的スムーズに運び、チーム員会議の開催は0件であった。</p> <p>・薬剤師からの連絡により早期受診・要介護申請につながった事例があった。</p>

<p>「もの忘れに関する相談会」の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の個別相談会を、地域の集会所等住民にとって身近な場所で開催し、気軽に相談できる体制を整え、早期発見・適切な支援につなげることを目的に開催した。 ・相談会では、個別相談の他にパソコンを利用した「もの忘れチェック」も行い、高齢者の不安の解消や認知症に関する意識の啓発につなげた。 <p>○令和元年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 9 回 参加者数 111 人（再掲：個別相談者数 8 人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、ミニ講話を実施しているが、今年度は参加者の要望が多い「認知症予防」をテーマに行った。関心が高いため質問も多く、あわせて早期発見の必要性も伝えることができた。 ・個別相談者数は多くはないが、継続して相談窓口の普及啓発に努める必要がある。
<p>認知症カフェ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人や家族、地域の人が気軽に集い、認知症について理解を深める「地域の居場所」として「認知症カフェ」を開催した。 ・認知症の人やその家族が安心して過ごせる地域づくりを目指すもの。 ・令和元年度は、三峯の杜及び認知症の人とあゆむ会が、それぞれ鶴住居地区（ともすカフェ）、小佐野地区（あゆむカフェ）で開催した。 <p>○令和元年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともすカフェ 開催回数 11 回 延参加者数 211 人 （再掲：認知症の人 27 人、家族 11 人、地域住民 164 人、その他 9 人） 内容：カフェタイム、交流ゲーム、講演会、演奏会 等 ・あゆむカフェ 開催回数 4 回 延参加者数 62 人 （再掲：認知症の人 11 人、会員 26 人、家族 9 人、その他 16 人） 内容：カフェタイム、ペーパークラフト 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や関係機関等の協力があり、参加者の多くが「楽しい」と話し、認知症の人も継続参加している。 ・広く地域に周知することで、認知症について理解し、支え合う地域づくりに貢献していく。

3 任意事業

※「任意事業」は、地域の実情に応じ、市町村独自の創意工夫で実施する事業

(1) 家族介護支援事業

事業名	事業内容・実績・評価																														
家族介護教室	<p>・高齢者を介護している家族等の介護に対する身体的及び精神的な負担を軽減するため、「介護方法」や「介護予防」、介護者の「健康づくり」について学ぶことのできる教室を開催した。</p> <p>・内容は、健康体操、レクリエーション、介護技術演習、介護予防講話など。</p> <p>・教室の開催は、市内の居宅介護支援事業所に委託。</p> <p>○令和元年度実施状況</p> <table border="1" data-bbox="469 772 1174 1435"> <thead> <tr> <th>事業所名</th> <th>開催回数</th> <th>実参加人数</th> <th>延参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いきいき指定居宅介護支援センター</td> <td>1回</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>いきいき指定唐丹居宅介護支援センター</td> <td>2回</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>ニチイケアセンター釜石</td> <td>1回</td> <td>29人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>はまゆり在宅介護支援センター</td> <td>47回</td> <td>178人</td> <td>748人</td> </tr> <tr> <td>仙人の里在宅介護支援センター</td> <td>6回</td> <td>20人</td> <td>119人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>57回</td> <td>260人</td> <td>929人</td> </tr> </tbody> </table>			事業所名	開催回数	実参加人数	延参加人数	いきいき指定居宅介護支援センター	1回	12人	12人	いきいき指定唐丹居宅介護支援センター	2回	21人	21人	ニチイケアセンター釜石	1回	29人	29人	はまゆり在宅介護支援センター	47回	178人	748人	仙人の里在宅介護支援センター	6回	20人	119人	計	57回	260人	929人
事業所名	開催回数	実参加人数	延参加人数																												
いきいき指定居宅介護支援センター	1回	12人	12人																												
いきいき指定唐丹居宅介護支援センター	2回	21人	21人																												
ニチイケアセンター釜石	1回	29人	29人																												
はまゆり在宅介護支援センター	47回	178人	748人																												
仙人の里在宅介護支援センター	6回	20人	119人																												
計	57回	260人	929人																												

・新型コロナウイルス感染症の関係で、予定していた教室を開催できなかった地区があった。

・今後も家族介護教室が実施可能な居宅介護支援事業所に委託し、事業を進めていく。

<p>認知症高齢者家族介護支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 9 月 18 日に設立し、活動している家族会「認知症の人とあゆむ会」の運営を、はまゆり在宅介護支援センターに委託している。 ・「認知症の人とあゆむ会」では、認知症の高齢者を介護する家族が、ひとりで悩みを抱え込まないように同じ経験を持つ会員が集いの場に参加して、悩みを傾聴し、互いに支え合う関係づくりに取り組んでいる。 ・認知症に関する知識の普及活動として、一般の方を対象とし、講演会等の企画運営も行った。 <p>○令和元年度事業実施状況</p> <p>「認知症の人とあゆむ会」の主な活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つどい定例会の開催 4 回 延べ参加者数 48 人 ・講演会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年 5 月 30 日（アミーガはまゆり） 「認知症とリハビリ」 せいてつ記念病院 作業療法士 小野寺圭子氏 令和元年 11 月 30 日（アミーガアはまゆり） 「レビー小体型認知症について」 はまと神経内科クリニック 院長 濱登文寿氏 ・あゆむカフェ（認知症カフェ）の詳細は別記（8 ページ）のとおり ・会報紙発行 4 回 ・会 員 数 正会員 30 人 準会員 16 人 賛助団体 19 団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族会」の普及啓発と会員の拡充が課題。 ・家族会に参加できない・出て来れない家族の支援も必要。 ・今年度から、「あゆむカフェ」を、認知症本人や家族が自由に参加できる「認知症カフェ」として年 4 回開催した。 ・関係者の協力により、認知症本人の参加もあり、サービス利用につながる等の効果がみられている。
-----------------------	--	---

(2) 認知症高齢者見守り事業

事業名	事業内容・実績・評価	
<p>認知症高齢者徘徊 SOS ネットワーク事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症高齢者徘徊 SOS ネットワーク事業を実施している。 ・この事業は、徘徊する可能性のある高齢者を事前に登録していただき、情報を警察と共有、徘徊事故が発生した場合、関係機関（SOS ネット協力機関等）との連携により早期発見につなげるもの。 ・平成 27 年度から、市町村名と登録番号が記載された「徘徊者早期発見ステッカー」を作成し、登録者へ配布している。 （ステッカーを履物などに貼り付けておくことにより、保護された場合、登録番号を確認し身元を迅速に特定できるようにするもの） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、制度の普及啓発に努めている。

	<p>・岩手県警で設置している「びかぼメール」(※)について、SOS ネット協力機関及び居宅介護支援事業所に周知し、協力を促している。</p> <p>※びかぼメール:「びかぼメール」は、岩手県警から安心安全情報を提供するネットワーク。「行方不明者手配情報」、「不審者情報」、「特殊詐欺発生情報」等を配信する。</p> <p>○令和元年度登録者数 (R2.3.31 現在) 72 人 (再:新規登録者 7 人)</p> <p>・登録者が行方不明となり、防災無線で捜索した件数は 1 件であった。</p>	
--	--	--

(3) 認知症サポーターの養成

事業名	事業内容・実績・評価	
認知症サポーター養成講座の開催	<p>・地域等の認知症への理解や対応力向上を目指して、地域包括支援センターが事務局となり、年間のサポーター養成目標数を 550 人として講座を開催。</p> <p>・小中学生を対象にした講座(「孫世代のための認知症講座」)も開催している。</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <p>・地域開催回数 8 回 参加者数 203 人</p> <p>・小中学校開催 7 回 参加者数 256 人</p> <p>(計:開催回数 15 回 参加者数 459 人 目標未達成)</p> <p>・高校生や職域、地域見守り隊を対象とした講座も開催し、認知症の方への対応についてグループワークする等、実践的な講座を開催することができた。</p>	<p>・小中学生を対象にした講座は、親世代への波及効果を期待し、学校への周知を強化しながら開催していく。</p> <p>・サポーターが活躍できる場が無い事が課題である。</p> <p>・地域でステップアップ講座を開催し、チームオレンジ開設に向けた準備を進めていきたい。</p>

(4) 閉じこもり等予防事業

事業名	事業内容・実績・評価	
ふれあい教室	<p>・家に閉じこもりがちな高齢者の方々に市内の集会所等で、音楽・手芸・ニュースポーツや、健康に関する講話等を開催し、高齢者の閉じこもりを予防する「ふれあい教室」を開催した。</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <p>・開催会場 14 会場 開会回数 170 回 延参加人数 1,807 人</p>	<p>・開催地区の掘り起し、及び長期支援団体の自主活動へのつながりが課題</p>

(5) 成年後見制度利用支援事業

(成年後見制度の市長申立、成年後見制度の普及啓発、成年被後見人等への報酬助成、成年後見センターとの連携等)

事業名	事業内容・実績・評価	
<p>成年後見制度利用支援事業</p>	<p>・認知症高齢者等、判断能力が不十分な方を法的に支援する制度である「成年後見制度」について普及啓発を図るとともに、相談者への制度の説明や、申し立てに係る書類の作成支援を行った。</p> <p>・平成元年7月1日、遠野市・大槌町・当市の2市1町による「釜石・大槌地域成年後見センター」が設置（地域包括支援センター隣接）された。</p> <p>・当成年後見センターとは定期的にモニタリング会議を開催し、成年後見制度に関する相談支援や情報共有、普及啓発活動・市民後見人の育成事業に関する協議などを行い、連携を図っている。</p> <p>※成年後見センターは、成年後見制度の利用促進と、円滑に制度を利用できる体制づくりを進める中核機関（4つの主な機能；広報機能、相談機能、成年後見制度の利用促進機能、後見人支援機能）</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度に関する相談 17件 ・成年後見制度市長申立て件数 2件 ・成年後見制度利用支援事業助成金申請（決定）件数 1件 ・成年後見センターとのモニタリング会議開催回数 20回 ・制度の普及啓発に係るチラシ及び研修会等について、釜石・大槌地域成年後見センターと連携（委託）し実施 <p>※成年後見制度は判断能力の状態によって、「後見（こうけん）」「保佐（ほさ）」「補助（ほじょ）」の3類型に分類される。</p> <p>後見：常に判断能力を欠いている方が対象 保佐：判断能力が著しく不十分な方が対象 補助：判断能力が不十分な方が対象</p>	<p>・市長申立を実施した2件はどちらも後見類型であった。</p> <p>・成年後見制度利用支援事業による「助成金申請」は、成年被後見人等の財産が少なく、後見人等に対しての報酬が支払えないため、助成を行ったものの。</p>

4 介護予防支援事業

事業名	事業内容・実績・評価	
介護予防支援事業	<p>・介護保険の要支援1、2と認定された方（訪問型サービス及び通所型サービスのみを利用している方「介護予防ケアマネジメント事業」対象者を除く）に対して、介護予防支援業務を行った。</p> <p>○令和元年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアプラン作成件数 2,408 件（年） ・月平均作成件数 201 件 <p>※介護予防ケアマネジメント事業と合算した件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアプラン作成件数 5,336 件（年） ・月平均作成件数 445 件 	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援認定者の増加及び市内居宅介護支援事業所の減少から、ケアプランの委託調整が困難な状況。 ・今後は、高齢者人口が減少傾向に転じていくことが見込まれるが、当面は高止まりが続く。 ・介護支援専門員の確保が課題。 ・要支援・要介護認定率 20%（令和2年2月末） ・高齢化率 39.5%（令和2年3月末）